

六、請負人を定める迄

複線型の一本の大トンネル、それを仕上げるには七年の日子が必要だと云ふのが、初めの考へです。七年の間には諸物價の變動がある。勞銀の變化もあるに決つて居ます。又五哩のトンネルでは、途中でどんな事故が起るかも知れません。殊に此トンネルでは地質の變化、地熱の高低、湧水の多少等に就いて色々心配がありました。之を普通の請負契約で、請負人の手にまかす事は、役所としても心配です。又請負人としても心元ない事です。どんな危険を負擔させられるのか見當が付きません。

元來役所の工事を施行するには、直營、直轄、請負と謂ふ三つの方法をとつてゐます。直營と謂ふのは、請負人を定めて、人夫を出させ之を使つて役所自身の手で仕事をする方法で、材料なども主に役所のものを使用するのです。直轄と云ふのは、一切請負人の厄介にならず人夫募集其他すべてを役所の手でやる方法です。請負と云ふのは世間一般に行つて居る方法ですから、茲に改めて説明する迄もありません。丹那トンネルをこの三方法の中で、どれでやるか、これは當初頭を悩した問題です。此のトンネルには前途に不安があつて、普通の請負方法でやれないことは、前に述べた通りです。さうなると、自然、直營か、直轄かと謂ふことになりましたが、直轄は其の當時の事情からは、一寸六ヶ敷しい方法でした。さりとて單純な直營も仕事が大きいだけに問題があります。そこで考へ出されたのが、「切投」と謂ふ特種な方法です。この方法は直營と請負との合の子見たいなもので、請負人に餘り危

險の負擔をさせない事にしたものです。今少しく此の方法を詳しく説明しますと、一つの工事を部分的に細く區分し、其の部分工事に單價だけをきめて、請負人に渡し、期限なども八釜しく定めずに、仕事の出來高に依つて支拂をしてゆくのです。それを工事に見込のついたものだけを、順次さう謂ふ風にして、請負人に渡して行くのです。ですから、請負人にとつては、危険の負擔が少く、役所の方も、直營よりは手數が省けます。只併し單價の決定と工事區分の定め方とは厄介です。

「切投」と工事方法が定まつて、次に請負人の詮衡になりましたが、之れは從來の經歷に依ることとなり、過去十年間に尤も多く鐵道建設の工事をした者を選ぶこととなりました。調査の結果、第一は鐵道工業會社、第二は鹿島組と云ふ事になり、此の兩請負人が選定されました。

次に熱海口と三島口とを、どつちの請負人が受けもつか、ふり當ての問題です。仕事をする上に熱海口と三島口とでは、土地の事情が大變違ひます。熱海口の方は温泉場熱海がすぐ側です。當時の熱海は今日程に、ひらけて居らなかつたにしても、三島口に比べれば、便利であり浴客の出入も繁く、客相手の場所で物價も高く、土木工事をやる本據を握るには、最も工合の悪い土地柄でした。之れに引きかへて、三島口の方は、只大竹部落と謂ふ寂しい農村があるだけで、全くの山の中ですから、工事飯場を一つ處に纏めて作るにも樂で、外部からの交渉誘惑もなく、人夫達の足留りもよく、土木工事をするには好條件でした。こんな關係から、鐵道工業會社にしる、鹿島組にしる、何れも三島口を引受けたいと、希望するのは無理のない事です。妥協させるのも面倒と、とうとう「くじ」

と云ふことになりましたが、鐵道工業會社が、熱海口の「くじ」を引き當てたので、鹿島組は三島口と云ふ事になりました。

兩請負人共、これで愈々大正七年から仕事に掛りましたが、坑門口の切取もすんで、愈々トンネルに入ったのは、熱海口は春、三島口は夏からでした。併し工事方法の「切投」には、役所の方も、請負の方も餘り経験がないので、始めは多少面喰つた様です。役所の方は餘り大事を取り過ぎて、工事を馬鹿に細く刻んだので、請負者は工の上腕を振ふ餘地が少く、手足を縛られて仕事をやる様であり、又役所の方も兎角手續倒れの嫌があり、自然仕事がかどらず、儲も薄いと云ふ譯で、旨くゆかなかつた様でした。しかしこれも始めの間のことで、次第に事情がわかるに従つて、工事の區切り方も、其の性質に應じて適當に決められ、請負人も之れに應じて、仕事の段取り方に馴れると云ふ譯で、仕事も順調に進むやうになりました。爾來今日迄此の方法を棄てずに實行して來ましたが、此の間普通材料の如きは次第に請負人持ちにし、又工事の見込がついた場合には、大量を纏めて普通の請負で渡すと謂ふ風にして來ましたから近頃では、同じ切投にしても、實質的には、請負と餘り變りなくなつて來ました。普通の工事はこんな風に切投、請負の二方法に依つて來ましたが、地質の悪い箇所等で、特種の工事、例へば地質調査のボーリング、セメント注入等を行ふ場合には、熟練工が役所の者でしたから、純粹の直營に依りました。

顧みますと、當初豫想した通り、いや遙かに豫想を越えて、此トンネルはえらい難工事となり、又歐洲戰亂以來の經濟界は色々動搖を來しましたから、伸縮性のある此の切投方法は、大體に於て成功であつたと思ひます。併し此

の方法も工事が順調に進んで居る場合には、大して問題もなかつたのでありますが、地質の悪い難所で、道坑を抜くの一年二年もかゝつた様な場合になると、此の方法は甚だ心もとない感じがしました。坑道を掘つても、掘つても崩され、此度こそはと、いき込みこんでやり度い場合にも、此の方法では失敗することが、直接請負人に苦痛とならないので——勿論請負者が一生懸命にやらないと謂ふ意味ではないのです——直接責任の地位にある現場監督者から見ると、隔靴搔痒の感で、どうも感心出來ませんでした。それで思ひ切つて請負人の世話にならず直轄にしようぢやないかと謂ふ強硬意見が、其の都度起りましたが、これも無理のないことだつたと思ひます。